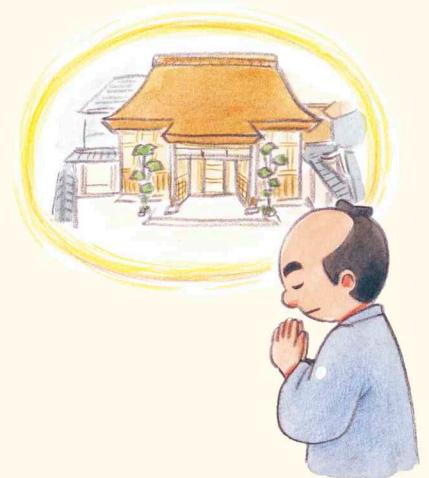


とさまく 殿様の暮らし

日々の出来事

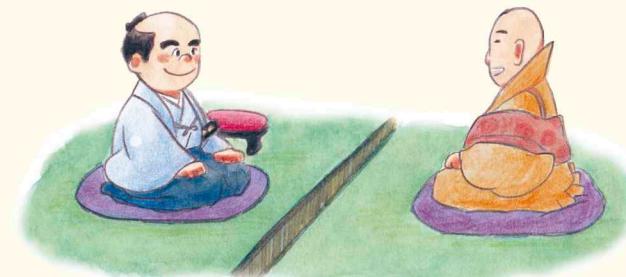
10代井伊直幸の宝暦7年(1757)
正月の1ヶ月の主な出来事を上
に記しています。殿様はどんな暮
らしをしていたのかな?

お正月も殿様は、家臣(家来の武士)や寺社の代表者、お祝いの使者に対応したり、忙しかったようです。家臣は定期的にあいさつに来ますので、殿様もそれに対応しなければなりません。さらに井伊家の祖先をまつる清涼寺へのお参り



や、お客様の応対が臨時に加わります。

他にも、家臣からの伺いに対して指示を出すことや、届いた手紙を確認する



ことは、ほぼ毎日していますので、一日中お休み、というのはなかなかさうです。

鷹狩

殿様はしばしば鷹狩りに出かけています。鷹狩りは、飼いならした鷹に雉や兔などの獲物を捉えさせる狩猟です。獲物を得ることよりも、鷹狩りすること自体が楽しみでした。武士の間では広く行われており、鷹や鷹狩での獲物が贈り物にもなりました。10代井伊直幸も家臣（家来の武士）に獲物を与えています。直幸



は一ヶ月のうちに何度も鷹狩りに出かけ、長いときは一日中出かけており、かなり好きだったようです。

殿様の食事



井伊直憲が使った食器



直憲の朝食
メニューは、ご飯・白玉団子
のみそ汁・豆腐・漬け物

表御殿の跡地から、食器などの暮らしの道具が発掘されています。

表御殿で働いていた家臣たちや、殿様やその家族のお世話をする女の人たちが使っていたものもあると思いますが、この中に殿様が使ったものもあるかもしれません。



(上) 湖東焼の急須
(右) 徳利



御庭～玄宮園～

現在玄宮園と呼んでいる庭園は、江戸時代は「御庭」と呼ばれていました。美しい風景を楽しむ場で、大きな池で舟遊びをすることもあったのでしょうか。ただ単に殿様が楽しむだけでなく、お客様をおもてなしする場でもありました。13代井伊直弼はここで何度か茶会を開いています。

また、殿様が鷹狩り出かけるときに、表御殿から櫻御殿へ、ついで御庭（玄宮



玄宮園をえがいた絵図

園）に行き、そこで鷹狩の服装に着替え、ここから船に乗って出かけることがありました。つまり、御庭は、出かけるときの船のスタート地点でもあったのです。鷹狩に限らず、清涼寺へのお参りなどでもここから船を出すがありました。

庭園には、いくつもの見どころを作り、それに名前を付けているんだよ

